２０２１年度事業報告

（１）学術集会および会務

Ａ）学術集会

１．第６９回総会（２０２１年５月７日～９日）
　　会場：パシフィコ横浜　会議センター
　　会長：松本哲哉（国際医療福祉大学医学部感染症学講座）

２．第６８回東日本支部総会（２０２１年１０月２７日～２９日）
　　会場：東京ドームホテル
　　会長：長谷川直樹（慶應義塾大学医学部感染症学教室）

３．第６９回西日本支部総会（２０２１年１１月５日～７日）
　　会場：長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
　　会長：保富宗城（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

４．本年関連国際学会として
　　18th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
　　２０２１年１１月１１日～１３日（シンガポール）

Ｂ）会務

１．年度末正会員数　８，３４４名
　　年度末賛助会員数　２２団体、団体会員数　９２団体

２．２０２１年度評議員会は２０２１年５月７日に、同定期総会は５月８日にパシフィコ横浜で開催された。

３．新評議員（２０２１年４月～２０２２年３月）
　　東日本支部８名（現在　２０９名）
　　庄司　健介（国立成育医療研究センター感染症科）
　　杉山　寛行（大正製薬（株）学術センターメディカルインフォメーショングループ）
　　瀬山　翔史（慶應義塾大学病院感染制御部）
　　多屋　馨子（国立感染症研究所感染症疫学センター）
　　中居　　肇（大館市立総合病院薬剤部）
　　中村　　造（東京医科大学病院感染症科）
　　二本柳　伸（北里大学病院危機管理部感染管理室）
　　藤谷　好弘（札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座）

　　西日本支部４名（現在　１９５名）
　　小佐井康介（長崎大学病院臨床検査科/検査部）
　　長岡健太郎（富山大学附属病院感染症科）
　　中村　彰宏（天理医療大学 臨床検査学科）
　　中村　安孝（大阪公立大学医学部附属病院薬剤部）

４．理事会６回開催

２０２１年４月、５月、７月、１０月、１２月、２０２２年２月

Ｃ）事業報告

１．編集委員会

１）日本化学療法学会雑誌　（委員長　小林　治）

・編集委員会　６回開催

・編集状況

２０２１年　第６９巻３号～６号

一般誌　　４冊　（掲載論文数１８編）

総説1編（昨年同時期10編）、原著9編（昨年同時期5編）、症例報告2編（昨年同時期2編）、短報6編（昨年同時期1編）、市販後調査0編（昨年同時期1編）

２０２２年　第７０巻１号～２号

一般誌　　２冊　（掲載論文数６編）

原著4編（昨年同時期3編）、症例報告1編（昨年同時期2編）、ガイドライン1編（昨年同時期0編）、市販後調査0編（昨年同時期1編）

その他編集中　１冊

・転載許諾

学会雑誌の図表を意図的に改変している例が目立っており、転載の適正化が求められる。11件（うち承認10件）

２）Journal of Infection and Chemotherapy（委員長　髙橋　聡）

・編集状況

２０２１年

Vol. ２７　No.４～１２（掲載論文数　２１８編）

２０２１年

Vol. ２８　No.１～３（掲載論文数　９８編）

・Reviewer of the yearを選考し、森永芳智評議員（富山大学）が受賞した。

・JIC Award受賞

Satoshi Iwata, Misako Takata, Miyuki Morozumi, Isao Miyairi, Keita Matsubara, Kimiko Ubukata, the Pneumococcal Meningitis Surveillance Study Group

「Drastic reduction in pneumococcal meningitis in children owing to the introduction of pneumococcal conjugate vaccines: Longitudinal analysis from 2002 to 2016 in Japan」（Vo.27 No. 4 p.604～612）

３）用語委員会（委員長　清田　浩）

抗菌化学療法用語集の改訂作業を始め、2010年から2020年のJIC誌および日本化学療法学会雑誌、感染症学雑誌に掲載されたすべての論文のキーワードの抽出作業を行った。

２．学術委員会（委員長　山本新吾）

・学術奨励賞受賞者

第 69 回総会

基礎部門

斉藤　開（奈良県立医科大学　微生物感染症学講座）

「環境から分離された新規カルバペネマーゼ IMI-18 の遺伝学的特徴の解明」

臨床部門

田中　遼大（大分大学医学部附属病院　薬剤部）

「発熱性好中球減少症の有無がバンコマイシンの小児薬物動態に与える影響」

日本化学療法学会雑誌　第 69 巻 5 号　p. 367-375, 2021

鳴海　菜月（札幌医科大学附属病院　検査部）

「敗血症患者における好中球パラメーターの有用性に関する検討」

Journal of Infection and Chemotherapy　Vol.27（2）p. 271-276, 2021

中村　祥崇（関西医科大学附属病院　小児科）

「Recent acute reduction in macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae* infections among Japanese children」

３．学会賞選考委員会（委員長　西　順一郎）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：三鴨廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科　臨床感染症学）

研究テーマ：抗菌薬起因性 dysbiosis において *Clostridium butyricum* が腸内細菌叢を改変するメカニズムに関する研究

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：青木弘太郎（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

研究テーマ：早期抗菌薬適正に資する高速かつ網羅的な血流感染症診断法の開発

４．国際渉外委員会（委員長　大毛宏喜）

１）International Society of Antimicrobial Chemotherapy（ISAC）の抗菌薬適正使用ワーキンググループおよび若手育成ワーキンググループの委員推薦とISACとの共同プロジェクトについて検討した。

２）2021年11月に18th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection（APCCMI）がWebで開催され、当学会との共催セッション「Current status of ESBL producing bacterial infections」および「Management of Blood stream infections」を行った。

３）ISACと多剤耐性グラム陰性桿菌に関するWebinar開催について打ち合わせを行った。

５．抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長　青木洋介）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：考え抜く

第 58 回　2021 年 5 月 7 日（土）パシフィコ横浜　会議センター

第 59 回　e-learning※

第 60 回　2021 年 10 月 27 日（水）東京ドームホテル

第 61 回　2021 年 11 月 5 日（金）岐阜長良川国際会議場

※第 59 回は新型コロナウイルス感染症の影響により、東京国際フォーラムでの開催を中止し、収録を行い、e-learning を実施した。

・委員会を数回、Web で開催した。

・2021 年 11 月 28 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで 2020 年度の受験者も含め、指導医試験を実施した。

・2021 年度認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。

・2022 年 1 月 1 日付けで認定証を発行した。

６．抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長　森田邦彦）

・第 23 回および第 24 回抗菌化学療法認定薬剤師講習会は新型コロナウイルス感染拡大により、やむなく開催を中止した。

・新型コロナウイルス感染拡大による 2020 年度の認定薬剤師追試験を 2021 年 4 月 4 日（日）に実施し、2021 年度の認定試験を 1 月 30 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで実施した。

・2022 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定する。

・「抗菌化学療法認定薬剤師テキスト改訂版 2021」を 7 月 31 日に発行した。

７．外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会（委員長　藤村　茂）

外来抗感染症薬認定薬剤師制度を立ち上げ、規則・細則を検討した。

８．三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長　松本哲哉）

１）第 8 回（2016 年）

・尿道炎（クラミジア）（3 回目：9 薬剤・目標 200 株・解析 41 株）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2021 年 5 月・横浜）にて報告し、論文を JIC（2022：28(1):1-5）に掲載した。

２）第 9 回（2017 年）

・小児科領域感染症（初回:32 薬剤・目標 1000 株・解析 926 株）
論文を JIC（2021：27(1):139-150）に掲載した。

３）第 10 回（2018 年）

・手術部位感染症（SSI）（3 回目:43 薬剤・目標 1000 株・解析 498 株）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2021 年 5 月・横浜）にて報告し、論文を JIC（2021：27(7):931-939）に掲載した。

・歯科口腔外科領域感染症（2 回目:29 薬剤・目標 400 株）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2021 年 5 月・横浜）にて報告した。

４）第 11 回（2019 年）

・呼吸器感染症（9 回目：42 薬剤・目標 1000 株・解析 983 株）
全国 32 施設より収集した 983 株の感受性測定解析し報告書にまとめた。

成績を日本臨床微生物学会（2022 年 1 月・仙台）にて報告した。

・皮膚科領域感染症（2 回目：33 薬剤・目標 1000 株・解析 398 株）

全国 28 施設より収集した 398 株の感受性測定解析し報告書にまとめた。

成績を日本臨床微生物学会（2022 年 1 月・仙台）にて報告した。

5）第 12 回（2020 年）

・単純性膀胱炎（3 回目）

全国 30 施設にて 581 株を収集し、19 薬剤にて測定解析中。

・複雑性尿路感染症（4 回目）

全国 30 施設にて 792 株を収集し、39 薬剤にて測定解析中。

・耳鼻咽喉科領域感染症（3 回目）

全国 55 施設にて 28 薬剤 1000 株計画にて実施中。

6）第 13 回（2021 年）

・尿道炎（淋菌性・クラミジア）

札幌医科大学が経年的に実施のサーベイランスに統合する形態にて実施中。

（目標症例数 1,200 症例、10 薬剤、92 施設）

・小児科領域感染症

全国 22 施設にて目標 1000 株、32 薬剤にて実施中。

7）第 14 回（2022 年）

・呼吸器感染症（10 回目）

2022 年 4 月の試験開始に向け準備した。

・手術部位感染症（SSI）

2022 年 4 月の試験開始に向け準備した。

8）ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートした。

９．抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長　竹末芳生）

「抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022」の各論を和文誌 第 70 巻 1 号に掲載し、冊子版を 2022 年 4 月に発行した。

10. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 光武耕太郎）

Minds に基づいて、MRSA 感染症の治療ガイドラインの改訂作業を開始した。

11. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長　三笠桂一）

2021 年 5 月 7 日に開催された委員会において、JAID/JSC 感染症治療ガイド改訂版の執筆要綱などを検討し、各ワーキングで作業を開始した。

12. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会（委員長　竹末芳生）

「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」の眼科領域および脳神経外科領域を追加した追補版の冊子を 2021 年 7 月に発行した。

13. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

「*Clostridioides*（*Clostridium*）*difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版を JIC

に投稿し、受理された。

14. 淋菌感染症アドホック委員会（委員長 三鴨廣繋）

3 月に委員会を開催し、淋菌感染症治療法のフローチャートの作成について検討を始めた。

15. 7 学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長　舘田一博）

2021年11月30日に委員会を開催し、1）　抗微生物薬創薬促進に関連する動きについて、2）ファージ療法の可能性と日本における展開の方向性、3）AMRアライアンス・ジャパンにおける活動の報告会を行った。

16. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長　川口辰哉）

１）「第2回抗菌薬適正使用支援プログラム全国調査アンケート」の結果に基づき「抗菌薬適正使用支援加算」の診療報酬改定案を策定・提出した。

２）委員会開催

第1回会議 2022年1月27日（Web会議）

17. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

外来抗菌薬適正使用調査委員会による第2回アンケートの調査結果「全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」を第95回日本感染症学会学術講演会/第69回日本化学療法学会総会合同学会時の委員会報告で報告した。

18. Key Drug選定ワーキンググループ（委員長 松本哲哉）

前回の10薬剤と合わせて32薬剤をKey Drugとして選定した。これは厚生労働大臣宛てに提出した安定供給に関する提言書の資料として提出された。

19. AST育成プログラムワーキンググループ（委員長 松本哲哉）

2022年1月26日（水）に第1回AST講習会「効果的なAS活動を行うために：各種手法の紹介と自施設での経験」をWebで開催した。

20. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 石井良和）

2022年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

21. 社会保険委員会（委員長　石井良和）

医薬品・医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目について検討した。

22. インフェクションコントロールドクター (ICD)制度

2021 年 12 月　認定者 22 名

（２）２０２１年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

２０２２年度事業計画

（１）学術集会および会務

Ａ）学術集会

１．第７０回総会（２０２２年６月３日～５日）

会場：長良川国際会議場、都ホテル岐阜長良川

会長：三鴨廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学）

２．第６９回東日本支部総会（２０２２年１０月２７日～２９日）

会場：京王プラザホテル札幌

会長：横田伸一（札幌医科大学医学部微生物学講座）

３．第７０回西日本支部総会（２０２２年１１月３日～５日）

会場：出島メッセ長崎

会長：宮下修行（関西医科大学内科学第一講座呼吸器感染症・アレルギー科）

４．本年関連国際学会として

32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)

２０２２年１１月２６日～３０日（オーストラリア）

Ｂ）会務

１．理事会、評議員会の開催について

理事会年７回、評議員会　年１回を予定

２．関連団体への対応

日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

Ｃ）事業計画

１．編集委員会

１）日本化学療法学会雑誌

・6冊発行予定（第70巻3～6号、第71巻1～2号）

・編集委員会を６回開催する。

・引き続き、学会誌には本学会の活動に相応しい科学的な業績を掲載したい。

・転載許諾については適正な対応に努めたい。

２）Journal of Infection and Chemotherapy

・電子版12号を発刊する予定。

・編集委員会を数回、開催する。

・JIC賞およびReviewer of the Yearを選考する。

２．用語委員会（委員長　清田　浩）

現在、ホームページに掲載済みの用語の確認と、今回、候補にあがっている用語が日本医学会用語集に掲載されているかどうか確認し、抗菌化学療法用語集改訂版を公表する予定である。

３．学術委員会

学術奨励賞を選考する。

４．学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

５．国際渉外委員会

・2022 年 11 月 26 日～30 日にパース（オーストラリア）で 32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC) が開催される予定である。

・2022 年 4 月 13 日に ISAC と多剤耐性グラム陰性桿菌に関する Webinar を開催した。

６．三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

カルバペネム系薬およびフルオロキノロン系薬（ラスクフロキサシン）のブレイクポイントを公表する予定である。

７．薬剤感受性検査検討委員会（委員長　石井良和）

微量液体希釈法とディスク拡散法のデータの相関性を検証し、抗菌薬のディスク含量を決める予定である。

８．抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

１）抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：適正使用の戦術

第 62 回　2022 年 5 月 14 日（土）Web

第 63 回　2022 年 6 月 3 日（金）長良川国際会議場

第 64 回　2022 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）京王プラザホテル札幌

第 65 回　2022 年 11 月 3 日（木）～5 日（土）出島メッセ長崎

※第 62 回は収録し、後日、e-learning を実施する予定である。

２）抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

・10 月末　指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。

・11 月 26 日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する予定である。

・2023 年 1 月 1 日付けで認定

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

９．抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

・第25回および第26回講習会はe-learningで実施する予定である。

・認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。

・2023年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

10．外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会

2022年4月1日より、外来抗感染症薬認定薬剤師制度を施行する。

11．三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

１）第 8 回（2016 年）

・尿道炎（淋菌）（3 回目）

論文を執筆し JIC に投稿予定である。

2）第 10 回（2018 年）

・歯科口腔外科領域（2 回目）

報告書をまとめ論文を執筆する予定である。

3）第 11 回（2019 年）

・呼吸器感染症（9 回目）

成績を日本感染症学会（2022 年 4 月・Web）および日本化学療法学会（2022 年 6 月・岐阜）で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。

・皮膚科領域感染症（2 回目）

成績を日本感染症学会（2022 年 4 月・Web）および日本化学療法学会（2022 年 6 月・岐阜）で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。

4）第 12 回（2020 年）

・単純性尿路感染症（3 回目）

全国 30 施設にて収集した 581 株を 19 薬剤で測定し、報告書を提出する予定である。また、成績を日本臨床微生物学会（2023 年 2 月・横浜）で報告する予定である。

・複雑性尿路感染症（4 回目）

全国 30 施設にて収集した 792 株を 39 薬剤で測定し、報告書を提出する予定である。また、成績を日本臨床微生物学会（2023 年 2 月・横浜）で報告する予定である。

・耳鼻科領域感染症（3 回目）

全国 55 施設にて 28 薬剤、1000 株計画にて実施を継続する予定である。

5）第 13 回（2021）

・尿道炎（淋菌性・クラミジア）

札幌医科大学が経年的に実施しているサーベイランスの報告書を提出する予定である。（目標症例数 1,200 症例、92 施設）

・小児科領域感染症

全国 22 施設にて目標 1000 株、32 薬剤にて感受性測定および肺炎球菌、インフルエンザ菌莢膜血清型測定を実施する予定である。

6）第 14 回（2022）

・呼吸器感染症（10 回目）

全国 32 施設にて目標 1,100 株、42 薬剤にて感受性測定を実施する予定である。

・手術部位感染症（SSI）

全国 24 施設にて目標 1,000 株、42 薬剤にて感受性測定を実施する予定である。

7）国立感染症研究所と協力し、今まで収集した臨床分離株のゲノム解析を行う予定である。

8）ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートする予定である。

12. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長　宮下修行）

・JIC にサブ解析を投稿した。
・新規抗菌薬のレジオネラ症治療におけるブレイクポイントの評価を行う予定である。

13. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

JAID/JSC 感染症治療ガイド改訂版を発行し、ホームページで公開する予定である。

14. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長　光武耕太郎）

MRSA 感染症の治療ガイドライン改訂版を発行する予定である。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会

「*Clostridioides*（*Clostridium*）*difficile* 感染症診療ガイドライン 2022」を発行する予定である。

16. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長　大毛宏喜）

耐性菌のファージ療法を見据えた基礎的検討を開始するにあたり、まずは臨床分離株を用いて有効性を示すファージの選別を実施する予定である。

17. 淋菌感染症アドホック委員会

・淋菌感染症治療薬の適正使用に関する検討を行う予定である。
・耐性因子を考慮した治療薬の選択の有効性を検討する予定である。

18. ７学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

Pull型のインセンティブの導入の実現に関して引き続き検討を行う予定である。

19. 抗微生物薬適正使用推進検討委員

「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス」の改訂作業を実施する予定である。

20. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

第 2 回アンケート調査結果を和文誌および JIC に委員会報告として掲載する予定であり、また新型コロナウイルス感染症の流行により、急性気道感染症の外来診療の様相が変化している為、2022 年における抗菌薬処方に関する意識や実情を調査する第 3 回のアンケート調査を実施する予定である。

21. Key Drug選定ワーキンググループ

供給停止や出荷調整が行われている抗菌薬について、代替薬の評価等についてさらに検討を行う予定である。

22. AST育成プログラムワーキンググループ

年 2 回の AST 講習会を Web で開催する予定である。

23. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

24. 社会保険委員会

医薬品および医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目、経過措置移行予定品目に関する検討を行う予定である。

25. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

26. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

27. インフェクションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：２０２２年１０月３１日